



令和2年度 学校だより

# はがきた

第13号 令和3年3月18日

## 教育目標

集中して学び、生命と人権を守り、生きる力の基礎を身に付けた子どもを育成する。  
『学ぶ子 守る子 がんばる子』

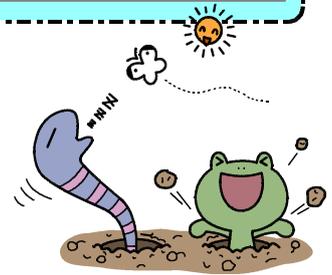
## 1年間お世話になりました

あっという間に季節は進み、すっかり春らしくなってきました。保護者の皆様には、ますます御健勝のことと思います。この3月は別れの季節でもあり、明日は卒業式です。6年生の大きく成長した姿をうれしく思うとともに、一抹のさみしさも感じます。

さて、令和2年度の学校だよりは、この号で最終号となりました。1年間、私のつたない便りをお読みいただきましてありがとうございました。1年間を振り返ってみると、児童の大きな成長が見られたことが、一番の喜びでした。しかし、昨年来の新型コロナウイルス感染症はまだまだ収束せず、日々対策に気をつけながらの生活となっています。児童の皆さんにも保護者の皆さんにも御不便をおかけしました。その一方で、コロナ渦だからこそよかったといえることもあったのではないのでしょうか。例えば、修学旅行や遠足です。どちらも今まで学校で行ったことがない場所で、歴史や文化、娯楽に触れることができました。スポーツフェスティバルは、競技を絞ったので、集中して練習でき、当日は応援にも力が入りました。御家庭での時間が今までより取れたことは、いろいろなことを話すことができ、よい時間となったのではないのでしょうか。その他にもあると思います。私は、出張が少なくなり、学校にいる時間が多くなり、児童と一緒に学校にいられたことがとてもうれしいものでした。今後もコロナの状況は楽観視できません。しかし、毎年何らかの困難はあります。どうせ困難なことがあるのなら、折角ですからそれによってよくなることに目を向けてみませんか。



明後日20日(土)は春分の日です。七十二候では「雀始巢(すずめはじめてすくう)」といい、雀が巣を構え始める頃だそうです。新しい春の始まりのような感じがしますね。4月の新しいスタートに向け、着々と準備を進めていきましょう。



## 6年生の皆さん、卒業おめでとう!!



明日、卒業式を迎え、6年生37名が本校を巣立ちます。6年生の皆さんの最上級生としての活躍は素晴らしいものでした。スポーツフェスティバルなどの係の仕事、はがきた当番の旗揚げや挨拶運動、委員会、挙げれば切りがありません。その中でも、下級生への模範となる態度やおうちの方を思う優しい言葉は、心の成長がしっかりと感じられるものでした。この成長は、自分の力であることはもちろんですが、おうちの方や地域の方、先生方を始めとする関わっていただけた全ての方のお陰だと思います。失敗からも多くのことを学んだと思います。命に関わるようなことになってしまうと、失敗してはいけないものもあります。しかし、大部分の失敗は、成長するためには必要なことなのではないのでしょうか。私は、1年間しか本校で生活することができませんでしたが、6年生と毎日会えることが楽しみでした。素直で前向きな6年生は、今後の成長が間違いなく期待できます。中学校でのさらなる活躍を期待したいと思います。

## ★4月の主な行事予定★

- ~7(水) 学年始休業
- 8(木) 新任式 始業式 通学班編制
- 9(金) 入学式
- 12(月) 委員会①
- 14(水) 離任式
- 15(木) 避難訓練(火災・地震)



- 19(月)
- 20(火)
- 21(水)
- 22(木)
- 30(金)

- 身体計測
- 腎臓検診1次
- 授業参観 保護者会
- PTA総会
- 家庭訪問(~28日)
- 家庭訪問予備日



# ★児童たちの活躍・学校生活の様子★

【ICT活用授業】(5年)



【ブレインジム】(2年)



【6年生を送る会】



【ジェンダー-川柳表彰】



【保護者会】

【凧揚げ】(1年)



【ネット時代の歩き方講話】(5, 6年)



## 「桜」は出会いの花？別れの花？

先月の学校だよりで、昔、花見といえば「梅」だったということを書きました。でも、やはり花見といえば一般的に「桜」ですね。桜の歴史は古く、日本最古の「古事記(712年)」の記録より始まります。この中で「木花開耶姫(このはなさくやひめ)」と呼ばれる女神が登場しており、霞(かすみ)に乗って富士山の上空へ飛び、そこから花の種を蒔いたと記述されているとか。桜は日本の国花であり、日本人は古くから桜に親しんできました。しかし、桜は日本固有のモノでなく、北半球の温帯地方に広く分布しており、特に中国や朝鮮半島などのアジア地域に多くの種類が分布しているのだそうです。また、桜は穀物の神が宿るとも言われ、「田植え桜」「種まき桜」などと農業開始の指標とされた場合もあったそうです。

さて、そんな桜の花ですが、最近、開花時期が早くなってきているように感じませんか。東京では、1980年代頃までは4月に開花することもあったそうです。しかし、ついに東京は、3/14に開花(史上最速タイ)。宇都宮でも、最速の開花予想は、3/21(日)となっています。開花から1週間程度で満開になるので、3月中に散り始めることになってしまいます。以前は、桜の花に迎えられて入学したような気がしていたのですが、このまま早くなると、桜の花に送られて卒業するようになりそうです。これは、単に気候の温暖化だけが原因ではなく、ヒートアイランド現象や桜の木の老齢化も関係あると言われていています。

ただ、もっと衝撃的な予想もあります。これは、今世紀末頃の最悪の予想なのですが、桜の花が咲かない地域が出てくるというのです。桜の開花システムは、花芽の形成(夏)→休眠(晩秋～初冬)→休眠打破(真冬)→つぼみ膨らむ(早春)→開花(春)となっていて、寒い冬がないと休眠打破というつぼみの目覚めがなくなってしまう、花が咲かないのだそうです。地球環境という大きな見方をしていかなければいけないようです。

今年の開花については、今後の気温によってまだまだ流動的ですが、卒業式には間に合わないようです。桜の花はないですが、温かい心の花満開で送ってあげたいと思います。桜の花の満開は、できれば、新入生の入学を祝ってあげられるように、予想よりちょっと遅れてほしいですね。



※芳賀北小ホームページでは、カラーで学校だよりを掲載しています。ぜひ御覧ください。